

場所 広島県三原市

面積 0.59ha

活動目的 ヒョウモンモドキの国内個体群の系統維持（国内絶滅の阻止）とその保護活動の広報



サイト概要 申請サイトは、ヒョウモンモドキ（種の保存法：国内希少野生動植物種）を保全のシンボル種としつつ、里山の多様な生息環境の保全を目的とするビオトープである。樹林に囲まれた浅い谷地形に、湿性草地、乾性草地、池、周辺森林とその林縁などが立地する。当サイトでは「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」が中心となり原則として年3回（春・夏・秋）の整備活動（草刈り、キセルアザミの捕植等）に加え、6月にはヒョウモンモドキ観察会が開催されている。

- 土地利用の変遷** 申請サイトは、元々は谷戸地形に位置する水田耕作地（一部休耕地を含む）で、1990年代まではヒョウモンモドキの良好な生息地であった。2005年～2007年にかけて広島県が圃場整備区画の一部をビオトープとして整備、2008年には三原市の所有地となり、主に「ヒョウモンモドキ保護の会」「くい環境会議」のメンバーが中心となって維持管理が行われた。その後、両団体は2012年発足の「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」の会員となり、当協議会によって現在まで維持管理が継続されている。
- サイト周辺の環境** 申請サイトは、「世羅台地」と呼ばれる広島県の中東部のゆるやかな高地に位置し、絶滅危惧種のヒョウモンモドキの国内最後の生息地として知られる地域である。サイト周辺はアカマツやコナラ等からなる二次林、竹林、スギ植林のほか、なだらかな尾根を挟んで水田地帯が隣接している。
- アピールポイント** 申請サイトは「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」の活動拠点として継続的に維持管理され、ヒョウモンモドキをシンボルとする湿地性の昆虫類や植物等を含む里山環境の保全を目的とするビオトープである。なお、当サイトでは毎年6月にヒョウモンモドキ生息地としては唯一の一般公開した観察会が開催されており、本種の保護活動の普及啓発を担う重要な場所でもある。

生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

認定制度：生物多様性保全上重要な里地里山
認定No.及び名称：No.34-1 世羅台地
認定機関：環境省 自然環境局 自然環境計画課

【選定理由や内容】

世羅台地は、広島県の中東部、吉備高原の南端に位置し、主に台地及び丘陵地と谷部からなる地域である。

当地には丘陵部のアカマツ等の二次林、谷底平野の水田、湿性草地、湿地やため池が多く残されており、モザイク状の土地利用が維持されている。ヒョウモンモドキ（種の保存法：国内希少野生動植物種）の生息地保全を通じて良好な湿地生態系が保全され、湿地性の多様な動植物の保全に繋がっている。

当地は、平成24～26年度及び平成27～29年度の2期計6年間、環境省の生物多様性保全推進支援事業の採択を受け、ヒョウモンモドキの保護管理事業を地元団体と行政や専門家等で作る「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」が保護活動を実施してきた。その後も、現在まで同協議会が継続的に保護活動を実施している。

なお、今回自然共生サイトに登録を申請している「三橋谷ビオトープ」は、同協議会が活動を展開する複数のヒョウモンモドキの保護区（いずれも世羅台地の範囲内に点在）のうちのひとつである。他の保護区は、保護の観点から詳細な場所等は非公開としているが、三橋谷ビオトープは、一般に広く公開して活動している唯一の場所である。



写真の説明：ヒョウモンモドキ（♂）



写真の説明：ヒョウモンモドキ観察会の様子

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

ヒョウモンモドキ（種の保存法：国内希少野生動植物種）の生息地を維持するために整備された申請サイト内は、定期的な草刈り等の管理が行われ、食草のキセルアザミが生育する湿地環境や、成虫の吸蜜源となるノアザミが生育する草地環境が維持されている。また、サイト内には湿地や草地のほか池、水路、畦畔、林縁などの多様なハビタットが存在し、多くの里山の動植物が生息・生育している。

【主な植生】

キセルアザミ、イグサ、ヒメシダなどの湿性草地、ノアザミ、リンドウ、ススキなどの乾性草地が混在している。池にはヒルムシロやガマなどが生育している。周辺森林はアカマツやコナラの二次林で、林縁部はベニシダなどのシダ類、コバノミツバツツジなどの低木類、シライトソウなどの草本類が生育している。

【確認された主な動植物など】

- 【湿性草地】 キセルアザミ (*Cirsium sieboldii*、全生育ステージ)
キイトンボ (*Ceriatagrion melanurum*、成虫)
- 【乾性草地】 ノアザミ (*Cirsium japonicum*、全生育ステージ)
コガネグモ (*Argiope amoena*、成体)
キタキチョウ (*Eurema mandarina*、成虫)
- 【池】 ガマ (*Typha latifolia*、成植物)
クロスジギンヤンマ (*Anax nigrofasciatus*、成虫)
- 【林縁】 コバノミツバツツジ (*Rhododendron reticulatum*、成植物)
オニヤンマ (*Anotogaster sieboldii*、成虫)

このほか、環境省レッドリストあるいは広島県レッドデータブックに掲載されている希少種として、両生類2種と昆虫類3種などが生息している。



写真の説明： 湿性草地に生育するキセルアザミ



写真の説明： 池に生育するガマとヒルムシロ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

ヒョウモンモドキ（種の保存法：国内希少野生動植物種）を保全のシンボル種としつつ、里山の多様な生息環境の保全を目的とするビオトープである。樹林に囲まれた浅い谷地形に、湿性草地、乾性草地、池、周辺森林とその林縁などが立地する。「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」が中心となり年2回（春・秋）の整備活動（草刈り、キセルアザミの捕植等）に加え、6月にはヒョウモンモドキ観察会が開催されている。

【主な植生】

湿性草地にはキセルアザミのほか、ヒメシダ、ツボスミレ、イグサなどが生育する。
 乾性草地にはノアザミのほか、リンドウ、ヒメジョオン、ススキ、ノガリヤスなどが生育する。
 池にはオニスゲ、ヒルムシロ、ガマなどが生育する。
 周辺森林にはアカマツやコナラを中心とした二次林で構成され、サイトに隣接するその林縁部には、ベニシダ、シシガシラなどのシダ類のほか、ナガバモミジイチゴ、コバノミツバツツジ、ヤマコウバシなどの低木類、シライトソウ、オオアブラススキなどの草本類が生育する。

【確認された主な動植物など】

- 【湿性草地】 キセルアザミ (*Cirsium sieboldii*、全生育ステージ)
- 【乾性草地】 ノアザミ (*Cirsium japonicum*、全生育ステージ)
 コガネグモ (*Argiope amoena*、成体)
 キタキチョウ (*Eurema mandarina*、成虫)
- 【池】 ガマ (*Typha latifolia*、成植物)
 クロスジギンヤンマ (*Anax nigrofasciatus*、成虫)
- 【林縁】 コバノミツバツツジ (*Rhododendron reticulatum*、成植物)
 オニヤンマ (*Anotogaster sieboldii*、成虫)

このほか、環境省レッドリストあるいは広島県レッドデータブックに掲載されている希少種として、両生類2種と昆虫類3種などが生息している。

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

ヒョウモンモドキ（種の保存法：国内希少野生動植物種）の生息地を維持するために整備された申請サイト内は、定期的な草刈り等の管理が行われ、食草のキセルアザミが生育する湿地環境や、成虫の吸蜜源となるノアザミが生育する草地環境が維持されている。また、サイト内には湿地や草地のほか池、水路、畦畔、林縁などの多様なハビタットが存在し、多くの里山の動植物が生息・生育している。

【確認された希少種】

申請サイト内では、ヒョウモンモドキ保全地域協議会の会員らによって実施される維持管理作業や観察会の中で、任意に動植物が記録されてきた。その中で、環境省レッドリストに掲載された希少種として、保全対象種のヒョウモンモドキのほか、昆虫類1種、両生類1種が確認されている。また、広島県レッドリスト2020に掲載された希少種として昆虫類2種、両生類1種が確認されている。

【保全対象種】

○ヒョウモンモドキ（*Melitaea scotosia*、成虫・幼虫・卵、種の保存法：国内、環境省RL：CR、広島県RDB：CR+EN）

本種はサイト内で1990年代より生息が確認され、少なくとも2010年～2021年にかけて毎年産卵が確認されている（成虫は2024年まで毎年確認）。

【その他の希少種】

環境省レッドリストあるいは広島県レッドデータブックに掲載された希少種として、昆虫類3種、両生類2種が生息している。



写真の説明： ヒョウモンモドキ（♀）
種の保存法： 国内希少野生動植物種
環境省RL： 絶滅危惧 I A類（CR）
広島県RDB： 絶滅危惧 I 類（CR+EN）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【湿性草地】 ヒョウモンモドキ幼虫の餌となるキセルアザミ（食草）の生育環境を維持するための草刈り作業と水環境管理を実施する（秋）。</p> <p>【乾性草地】 ヒョウモンモドキ成虫をはじめとするチョウ類やハナバチ類、ハナアブ類などの吸蜜源となるノアザミの生育環境を維持するための草刈り作業（原則として春、夏の年2回）を実施する。</p> <p>【池】 ヒルムシロ、ガマなどの水生植物やヨツボシトンボなどのトンボ類のハビタットを維持するために、適宜泥上げや草刈りを実施する。</p> <p>【林縁】 里山の動植物の生息・生育環境の維持、作業時の利便性の確保のため、適宜枝切や草刈作業を実施する。</p>	<p>【モニタリング対象】 昆虫類（ヒョウモンモドキほか）、植物（キセルアザミ、ノアザミほか）を中心に、両生類、爬虫類、哺乳類、鳥類などについて、管理・整備活動時に確認できたものを記録する。</p> <p>【モニタリング場所】 申請サイト全域（0.59ha）と、その周辺森林（可視範囲内）とする。</p> <p>【モニタリング手法】 【ヒョウモンモドキ】卵群数のカウント、成虫発生時期の個体数カウント 【キセルアザミ、ノアザミ】生育状況の確認 【その他動植物】任意観察法</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 【ヒョウモンモドキ】成虫：6月に1回、幼虫群：8月に1回 【キセルアザミ、ノアザミ】上記にサイトの管理・整備活動時を加えて適宜 【その他の生物】上記にサイトの管理・整備活動時を加えて適宜</p> <p>【モニタリング実施体制】 ヒョウモンモドキ保全地域協議会の会員および有識者により実施する。</p>